東京オリンピックで世界一になる

小林中学校１年

溝口（みぞぐち） 愛歌（あいか）さん

第 44 回全国中学校柔道大会女子 48 キロ級準優勝

左からチームメイトの古川（ふるかわ）舞（まい）さん、横山陽華（よこやまにちか）さんと溝口さん。２人は「愛歌は普段は面白いけど、柔道になると怖い」と口をそろえる

「柔能く剛を制す」

小林中1年の溝口愛歌さんは、全国の名だたる上級生を抑え、第44回全国中学校柔道大会女子48キロ級で、準優勝の快挙を遂げた。

しかし、溝口さんは「すごく悔しい。技が遅かったし、駆け引きもうまくできなかった」と、この結果に全く満足していない。

彼女の得意技は「背負い投げ」だが、試合では返し技を恐れ、使えなかった。

「背負い投げを磨き、次は、絶対に日本一になる」と言葉を強めた。

彼女が柔道を始めたのは6歳のとき。姉が柔道をしており、父親に勧められたことがきっかけだ。

小学生のころから県内では負けなしで、県大会6連覇を果たしている。

一方、その道のりは決して平坦ではなかった。

小学6年のときに、練習で肩の関節を骨折。2週間寝たきりの状態になった。久々に起き上ったときは、自分の体が自分のものではない感覚だった。そして、1カ月以上、練習ができない日々が続いた。溝口さんは、「とにかく不安だった」と当時を振り返る。

ケガが完治しないまま、大会に挑み、県は何とか突破。しかし、全国ではベスト8と自身が納得のいかない結果に終わった。

その悔しさが、彼女をさらに奮い立たせ、努力の原動力になっている。

指導している中西太（なかにしふとし）先生は、「休みと伝えると不満を言ってくるほどの練習の虫。その姿は、ほかの子どもたちへの見本になっている」と話す。

溝口さんは、とにかくよく走る。幼いころから練習初めのランニングは欠かさない。そんな彼女に影響を受け、チームメイトも数カ月前から走り始めた。

父親の泰三（たいぞう）さんも、「毎日、練習を見ているが誰よりも頑張っている」と誇らしげだ。

現在、溝口さんは中学1年から高校1年までの階級毎に全国から数人しか選ばれない、全日本柔道連盟D強化指定選手の一人。合宿などで、日本代表の選手と一緒に練習をしている。

「夢は、東京オリンピックで世界一になること」。7年後、世界中の注目を集める彼女の姿が見れるかもしれない。

【上】練習場は小林西高等学校の体育館。同年代の練習相手が、あまりいないため、高校生との練習がメインになっている

【左】練習初めのランニングの様子。毎日５キロのランニングと 200 メートル 10 本のダッシュが日課だ

【右】練習後は、ループのぼり。不安定なロープを手だけでのぼることで、柔道に必要な、握力、腹筋、背筋や引く力などをバランスよく鍛えている

【小林人】のコーナーでは、小林市在住や出身のキラリと光る人をご紹介します。